



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第3巻第
3号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第3巻第3号). 泌尿器科紀要 1957, 3(3): 244-244

ISSUE DATE:

1957-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111419>

RIGHT:

編 集 後 記

去る1月29日朝、新聞を見てびっくりした。弘前大学杉山万喜蔵教授の急逝が報ぜられている。教授は特に泌尿器科レントゲン学に造詣深く、人柄も円満にて、予てから尊敬と親愛の感を抱いていた。学会で同じ宿に泊った事もあった。最近にお目にかかったのは北海道の学会の折であった。本誌には特に御厚意を頂き、既に数篇の論文を寄せられた。実は本誌巻頭文の御執筆をお願いして御承諾を得、その到着を待っていたのであったがその文章にも遂に接する事が出来なくなった。茲に深く哀悼の意を表し御冥福を祈る。



健康保険に対する意見も立場の相違によつて色々であろう。大学病院に居る者の一人として次の様な事を考える。大学でも健保を取扱っているが本来は医育及び研究機関である。この点が一般実地医家と異なる。学生の講義に於ては最新の検査法や最良の治療法を述べねばならぬ。時には外国の状況さえも紹介せねばならぬ。その方法が健保で承認されて居る居ないには拘らない。之は最良の検査法或は治療法であるが健保で認められていないから用いてはならぬ等と一々講義しているわけにはゆかない。健保に当てはまる事だけを教えていては確な医者が出来上らない事は云わずもがなである。次に研究の点であるが、健保規程に「各種の検査は、診療上必要があると認められる場合に行い、研究の目的をもつて行つてはならない」とある。勿論之にも一理はあるが、厳密に云えば診療と研究との境界も常にはつきりしているとは云えぬ。研究によつて診療も進歩してゆくのである。それによつて健保診療及び国民医療の内容が向上するのである。その研究を行うのが大学である（一部の大病院も含まれる）換言すれば大学は国民医療を進歩させるべき責任を背負わされているのである。若し大学に対しても健保規程を劃一的に適用せんとするならば、それは医療の進歩を妨げるものである。健保がこの研究面の経費を全く負担しないと云うのは虫がよすぎる。むしろ健保当局は進んで大学に研究費を提供すべきではなからうか。今や健保問題は大学に於ても単に病院だけの問題ではなく、全日本医科大学の医育、研究並びに医療に亘る問題である。

購 読 要 項

1. 発行は毎月（年12回）とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都 4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名（フリガナ）、住所（雑誌郵送先）、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

投 稿 内 規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他、寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない、400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. J. Urol., 45：527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を付け、なるべくタイプライターを用いること。
6. 掲載料は4頁迄毎頁 500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込みこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部